杉中学校　生徒支援通信

進木

進木【すぎ】・・・『杉』の語源。ぐんぐんと上に向かって、まっすぐに進む木の様子。

2025年2月　発行

「言霊」とは…言葉に宿るエネルギーです

3学期が始まってあっという間に時が過ぎ、3学期も残すところあと1ケ月程度となりました。3年生に至ってはあと 3週間ほどで卒業式の日となります。1日1日を大切に過ごすことができていますか。

以前、3学期は**「別れのとき」、そして「新しい一年の準備のとき」**であると話をしました。この3学期を終えると、現在みなさんの周りにいる人たちとはクラスが離れてしまい、これまでのように関わることがなくなってしまう人もいます。また3年生では卒業してしまうとしばらく会わなくなってしまう、なかにはもう会うことがなくなる人もいるかもしれません。その一方で、今は関わりが少ない人と今後深い関わりとなるかもしれません。だからこそ、1日1日みなさんの周りにいる人との時間を大切に過ごしてほしいと心から願っています。

先生たちはそのような願いを持ちながら日々みなさんの学校生活を見ています。その中で最近、みなさんの**言葉遣いや発言**が気になっています。そこで、ある新聞記事を紹介したいと思います。

2025年1月6日(月)の「日本教育新聞」に掲載された埼玉県のある小学校校長先生の談話です

みなさんは「ことだま」という言葉を聞いたことはありますか。日本では、大昔から**「言葉には魂が宿っていて**、口に出した言葉通りの結果をもたらす力がある」と言い伝えられてきました。「ことだま」は、**「言葉に宿るエネルギー」**とも言えます。

自分の言葉を一番近くで聞いているには誰ですか。それは自分です。ですから、プラスの言葉を言われた相手だけでなく、その言葉を発した自分にもプラスのエネルギーをもたらします。誰かに「ありがとう」といえば、人から「ありがとう」と言われた時と同じ効果を自分の体が受け止めるのです。

残念なことに、マイナスのエネルギーを持つ言葉をたくさん使う人がいます。「面倒くさい」とつぶやいた言葉は、自分の耳に最初に入り、ますますやる気を失わせます。「嫌だ」「どうせ」「できない」など、本当はできる力があるのに言霊の力で「できない」方向に進んでしまうことがあるかもしれません。

人は誰でもプラスの言葉もマイナスの言葉も吐くものです。マイナスの言葉を言わないように気を付けると、**「吐」**の字の横棒（マイナス）が消えて**「叶」**という字になります。面白いですね。どうせなら願いが叶う人生の方がいいと思いませんか。

さあ、ここでマイナスの言葉をプラスの言葉に言い換える練習です。答えはいろいろあると思います。自分なりのプラスの言葉を見つけてください。「疲れた」という言葉、口癖になっていませんか。それは「よく頑張った」結果です。「忙しい」と投げ出したくなるときもあります。それは「人気芸能人並みのスケジュールだ」と言えます。「これしか進まなかった」と落ち込むときは、進んだ方に目を向ければ「半分も進んだ」と言うことができます。

言葉が変われば、人生も変わります。楽しく笑える前向きな言葉を使っていきましょう。

最近の自分の発言や言葉遣いを省みる良い機会としてください。**マイナスな言葉や悪気があるなしに関わらず誰かを傷つけてしまう発言**をしていないか、ぜひ**「プラスの言葉」**がたくさんあふれる学校を目指しましょう。先生たちはみなさんにとって、安全で安心できる杉中を目指しています。

すぎーね

早く行きたいなら、１人で歩いてください。

遠くまで行きたいならほかの者とともに歩いてください。

これは**アフリカの諺**です。これまでにも様々な分野の著名人や企業が引用して、比較的知名度の高いものだと認識しています。みなさんはこの諺についてどのように考えますか。

人類誕生の起源であるアフリカで太古の昔、人間が絶滅せずに野生動物と共存するにはみんなで病気や怪我、食料対策など様々な知識を分かち合いながら、弱い子どもを守り集団で行動することで「遠く」までいくことができたり、命を守られる可能性が大きくなったりすることから生み出された諺であると推測できます。

では、現代に置き換えて考えてみるとどのように捉えることができるでしょうか。生命や法律・ルールに関わることにおいては迅速に決断を迫られる状況が考えられるため、**「1人で早く行く」**ことが求められます。チームスポーツや仕事、問題解決や課題克服に関しては複数の力や多くの情報や知識が必要となるため、**「みんなで遠くに行く」**ことが求められます。

学校はその両方の判断を養う場ですが、特に後者である「みんなで遠くに行く」力を養う場です。自分や身近な人（家族や親戚など）以外の多くの人と交わり、様々な人との関係づくりや距離を計ることを学んだり、ともに同じ目標に向かって進んでいく上で起きる問題や課題を解決し、達成体験に導く経験を積んだりする場です。「言霊」でもお話をしたように、**「プラスの行動」**で学校がみなさんにとって安全・安心できる場となり、さらにはみなさんが幸せな人生を生きていくことを先生たちは心から願っています。